

2015年度 JEA事業計画

「見よ。ひとりの王が正義によって治め、首長たちは公義によってつかさどる。」

イザヤ書32章1節

戦後70年を迎える今年は、キリスト教会をはじめとして社会の各所で、戦後の歩みを振り返り、未来を展望する営みが行われています。

それ自体は大切なことですが、必ずしも明るい展望が開けているとは言えません。「制度疲労」とでも言えるような現象があちこちで感じられます。

私たちキリスト教会は、そのような中で来年の第6回日本伝道会議のテーマを「再生へのRe-VISION～福音・世界・可能性」と定めて準備を進めています。すでに常識として、あるいは習慣として行われているようなことをもう一度見つめ直し、そこに前進を妨げるような固定化されたものがあるならば、それを取り除いて、福音の本質に立ち返り、みことばにしっかりと立ち、御霊の自由で軽やかな導きをいただいて、この国と世界に対する責任を果たし続けようと思っています。東日本大震災の救援・支援への取り組みが、教派・教団の枠を超えて協力し合っていることを思うとき、その協力態勢をキリスト教会の様々な活動の協力を生かすことができるのではないかと、新しい枠組みや相互の信頼と協力を進めることができるのではないかと、模索を進め、一層の努力を重ねたいものです。

世界のさまざまな国で、周囲の国々を顧みる余裕がなくなったのか、自国中心主義とでもいった様相が際立ってきています。私たちの国も例外ではありません。戦後の民主主義の歩みが大きな曲がり角に來ている感も抱かされます。

クリスチャンであっても政治的立場はさまざまですが、創造主なる神に造られ、罪を犯し、キリストの救いを備えられた「人」という存在の本質をみことばによって知らされている私たちは、時流に流されることなく、人として、国として、あるべき姿を求め、祈りつつ、取り組むべきことに取り組みたいものです。また、近隣の国々との関係を始め、世界の国々との関係も、世界的なつながりを持っているキリスト教会にしかできない形で、平和を求め、相互の信頼の回復に貢献したいものです。そのためにも、道標となるべき「戦後70年にあたっての声明」を出したいと思っています。

私たちは、正義をもって世界を治められる、ただお一人の真実の王を知っている者です。この時代にあつて、そのお方の証人として証しと宣教を進めましょう。この真実の王の御名を貶めるような異端的な動きがキリスト教会の中に入り込まないように、常に目を覚まし、真理と偽りを見極める鋭い霊的な感覚を養い続けましょう。

また、地上の為政者たちが公義をもってその役割を果たすことができるようにと、祈りつつ、キリスト教会に託された社会的責任にも取り組んでいきたいものです。

JEA理事長 中台孝雄

1. 戦後70年を迎える日本の福音派の原点確認と、宣教協力・災害対応の推進

戦後70年を迎えて第二次世界大戦中の記憶が風化しつつある中、戦時下における日本のキリスト教会の経験と戦後の福音派結集の原点を確認する「戦後70年にあたってのJEA声明」を発表し、次世代への継承のためにJEA社会委員会と青年委員会共催の戦後70年青年集会を開催します。

JCE5テーマで掲げられた「危機の時代」という問題意識も、東日本大震災によって問われたホーリスティックな福音理解も、実はこの福音派のアイデンティティは何かという課題に繋がっています。聖書は誤りなき神のみことばであるとの聖書信仰によって結集した原点を再確認し、聖書信仰の成熟を求めつつ、この国に福音を満たしていくために教派・教団、宣教団体などの枠をこえた宣教協力を進めます。

また東日本大震災被災地域への復興支援を継続すると共に、そこから学んだホーリスティックな福音理解を活かした宣教協力と次の大規模災害時に福音に生きる隣り人となるための災害対応の働き（災害対応チャプレン養成、教会防災ネットワーク推進など）を進めます。

2. 第6回日本伝道会議（JCE6）に向けた取り組み

JCE6テーマ「再生へのRe-VISION～福音・世界・可能性」の地域における実践として、2014年度は開催

地神戸のアナログ各委員会によるセミナー、イベントなどが開催されました。2015年度は大阪で宣教フォーラムを開催し、JCE6に向けた関西圏での協力推進に努めます。またJEA各専門委員会によるJCE6諸プロジェクトを立ち上げ、開催地とも連携しながら、それぞれの視点から「再生へのRe-VISION」の取り組みを進めます。2018年に設立50年を迎えるJEAそのもののRe-VISIONも視野に入れつつ、日本の福音派諸教会の宣教における一致と協力の実を生み出す努力を継続します。

第6回日本伝道会議（JCE6）概要

- ・日程：2016年9月27日（火）～30日（金）
- ・場所：神戸コンベンションセンター
- ・テーマ：「再生へのRe-VISION～福音・世界・可能性」

3. アジアおよび世界の教会との連帯と具体的な協力の業

日本福音同盟（JEA）はアジア福音同盟（AEA）と世界福音同盟（WEA）に加盟し、アジア地域および世界の福音的諸教会との協力関係を結びつつ、教会の宣教の業に参加しています。

2014年のWEA総会中止とタニクリフ総主事辞任という困難な状況の中、WEA正常化のためにJEAはAEAと協力してフィリピン福音同盟のテンデロ氏を推薦し、2015年3月よりテンデロ氏がWEA総主事としての働きをスタートしました。4月に召された葛田公義氏やフィリピンのジュン・ベンサー氏が目指した草の根からのアジア、世界の教会の連帯を作り上げるべく努力していきたく願っています。引き続き、国際ローザンヌ運動やトランスフォームワールドなどのグローバルな宣教運動とも関わりながら、世界の宣教の潮流の中で、日本の教会の使命を果たしていきます。

JEAはアジア福音同盟実行委員として植木英次国際渉外室長を派遣し、フィリピンやネパールの災害支援を行うなどアジアにおける大切な働きを担っています。また、東アジアでは、日中韓各国のナショナリズムの台頭で国家間の関係が困難な状況にある中、さまざまなチャンネルを通してキリスト者としての交流・協力の機会を継続していきます。

4. 各専門委員会による2015年度活動計画

今年度、各専門委員会が計画している主な活動は以下の通り。

A. 宣教委員会

- 1) 「宣教フォーラム・大阪」開催を計画
日時：2015年9月28日（月）～29日（火）
近畿放送伝道協力会、JCE6実行委員会・開催地委員会とも協力し、JCE6のプレ大会の意味も込め、大阪で宣教フォーラムを開催する予定です。
- 2) 「宣教フォーラム青森」に共催
日時：2015年7月19日（日）～20日（月）

B. 援助協力委員会

- 1) 東日本大震災対策室の活動を引き継ぎ、救援・復興活動に協力する。
- 2) 長年協力関係にあるワールド・リリーフおよび米国ホィートン大学人道的災害支援研究所(HDI)との共同プロジェクトとして、救世軍、DRCネット、クラッシュ・ジャパンなどと協力しながら取り組んでいる、災害対応チャプレン養成プログラムと地域教会の災害対応支援プロジェクトを継続させる。東日本大震災の被災地域だけでなく、今後、地震などの災害発生が予測されている首都圏、東海、関西などに、次期災害に備えた地域教会ネットワークの構築をはかる。
- 3) 国内外からの支援金の管理を行う。
- 4) 援助協力ニュースを、JEAニュースに組み込む形で発行する。
- 5) 第6回日本伝道会議に向けてプロジェクトを立ち上げる。

C. 神学委員会

- 1) 福音主義、福音派アイデンティティについての神学研究を継続する。
- 2) JCE6における神学委員会担当プロジェクト「聖書信仰の成熟を求めて」の準備を進める。

D. 社会委員会

- 1) 第27回信教の自由セミナーは、青年委員会との共催による青年向けセミナーとして9月19日（土）に行なう。
- 2) 信教の自由セミナー報告書の発行
- 3) 憲法改定問題、君が代強制問題について教派を超えた連帯を継続する。

E. 女性委員会

- 1) 宣教委員会主催の「宣教フォーラム」への参加協力。
- 2) JCE6(日本伝道会議)プロジェクト「ファミリーミニストリー」の立ち上げと取り組み。
- 3) 神戸地区女性委員会との協力体制作り。
- 4) 各専門委員会の女性オブザーバーとの連携。
- 5) 継続活動
 - ・「流れのほとり」発行。
 - ・女性委員会情報サイトの更新。
 - ・PCEC(フィリピン福音同盟)とAEA(アジア福音同盟)女性委員会との交流。

F. 青年委員会

- 1) 戦後70年青年集会を社会委員会と共催 日時：2015年9月19日(土)
- 2) JCE6に向けた青年プロジェクトに取り組む
 - ・青年宣教セミナーは神戸青年委員会のユースリーダーズセミナー(9月23日(水))に合流
- 3) NSDセミナー 2回開催予定